




No.1 土地利用型法人の経営戦略の策定と持続的経営の展開

- 活動期間 令和5年度～令和7年度
- 対象者名 農事組合法人 おおぬき彩土里ファーム（役員6人）
- 課題の背景
 - ・ 鹿飼沼地域の大区画圃場整備事業を契機にR3.8に法人化。R4.6に40歳代の代表理事に交代したが、他理事やメインオペレーターは60～70歳代前後で、将来的な担い手不足が懸念されている。
 - ・ 持続的な営農のため事業計画を適宜見直し、担い手確保に向けた周年作業の平準化・高収益作物導入による収益向上や法人運営の仕組みづくりへの支援が必要。
 - ・ 事業計画の検証と見直しのため、経営状況を適切に判断するスキル習得が必要。
 - ・ 水張りができない開田が約10haあり、今後の活用方法等について検討が必要。

活動内容及び成果の概要

定性的目標	活動事項	活動内容及び成果
<p>■ 法人の経営状況を把握し、今後の経営改善に活かすことができる。</p>	<p>◆ 経営管理能力向上支援</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 研修会（5回）等を通して決算書の内容について理解を深め、役員自ら総会で組合員に説明し、今後の運営方針について検討することができた。 ■ 営農管理支援（5回）として、開田での小麦作付けを止めた場合や、露地園芸作物を導入した場合の経営収支を示した。また、雇用や露地園芸作物、ライスセンター運営等の先進事例として農業法人への視察を実施したことで、役員間で今後の営農方針について検討が行われるようになった。 ■ 事業計画の見直しのため、将来ビジョン（5年後）が策定され、ビジョン実現に向けた営農品目や開田の取り扱いの見直し、ライスセンター整備、人材確保等に向けた取り組みの検討が始まった。
<p>■ 周年作業平準化及び所得の安定確保に向けた高収益作物の導入が検討される。</p>	<p>◆ 栽培技術向上支援（さつまいも、土地利用型作物）</p> 	<p>さつまいも</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 関係機関と連携して栽培試験と巡回指導等を実施（6回）し、栽培技術向上を支援した。 ■ その結果、出荷量1,568kg/10a、売上570,838円/10a、所得率40～50%となり、良好な成績となった。また、営農品目にさつまいもを導入した際の経営収支について、法人と一緒にシミュレーションを実施し、有望な品種であると考えられた。 ■ 次年度は法人として、さつまいも及びねぎの作付を開始する予定である。 <p>土地利用型作物</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 開田での強害雑草対策について、薬剤散布及び遮光による効果を確認するため、比較試験と各種調査等（6回）を実施した。試験の結果、遮光の方が防除効果への期待が高いことが分かり、必要経費も含めた対策案を示した。 

定量的数値目標の達成状況

数値目標：新規導入品目数 R4年 0→R5年 1→R6年 1→R7年 2

R5年度における達成状況：1